

兵庫県高校新人大会

須磨の健闘むなし
近畿大会出場の5校決まる

御影工が連続栄冠

53年度兵庫県高校新人大会最終日は2月25日、5位決定戦に続いて神戸中央球技場で御影工―須磨の決勝を行い、御影工が3―0で決勝、昨年に続いて2連勝を飾った。

新人戦のタイトルをかけた一戦は、神戸市予選の決勝と同じ顔合わせとなった。地力にまさる御影が終始主導権を握って、FW北川のハットトリックで3点をあげ、守っても無失点のまま押し切った。

なお、御影工、須磨、志知、西宮東、姫路の5チームは、3月25日から4日間、京都・西京極球技場を中心に行われる近畿大会に出場する。

▶決勝

御影工 3 (0-0) 0 須磨

白と黒のまだらなボールが、長身の北川の右足から発射され、ゴールネットに3度突き刺さった。まず1点目。後半18分、ゴール前でシュートしたボールが、はね返って混戦になったところを、右足でけりこんだ。それまで須磨が執ように攻め、御影工は決定的なチャンスがつかめなかっただけに、この1点が大きくものをいった。33分にもペナルティエリアを少し入ったところで、再び北川の右足がうなづいて、ダメを押す2点目が決まった。3点目もやはり北川の右足

から放たれた。

須磨は神戸市予選で、御影工を2―0で下しており全体の水準は高く、今後の鍛え方によっては、兵庫一の座を獲得する可能性も十分だ。そのためにはバックスの強化と、攻撃のパターンを増やす必要がある。

なお、優秀選手には次の16人が選ばれた。
【優秀選手】照岡徳人、与保二、北川雅史、井若 盛二 (以上御影工)、新井司、石川潔司、山名幸男 (以上須磨)、田之畑純二、岡田正弘 (以上西宮東)、小幡武次、上田正雪 (以上志知)、八木清貴、萬谷明弘 (以上姫路)、島垣秀治 (洲本)、中根孝介 (県尼崎)、大橋秀清 (関学) =16人

兵庫選抜が出場

3月下旬に全日本選抜中学生大会

3月27日から31日まで東京・東鴨スポーツセンターほかで行われる全日本選抜中学生大会に、兵庫県選抜が関西代表として出場する。

この大会は昨年から日本協会が、次代になう優秀な選手を広い範囲から発掘して育てようとしたもの。出場するのは日本の10地域の選抜チームで、できるだけ幅広く選抜することとし、単一チームよりの選手は4人以下に抑えられている。また、夏の全国中学生大会に参加する資格がない少年団やクラブチームの選手も対象にされ、神戸FC、潮少年団から合わせて3人が選ばれた。

昨年は日本協会からの推薦で出場チームが決められたが、今年は各地域で予選が行われ、関西代表は兵庫が滋賀選抜を破って出場権を手にした。兵庫選抜は昨年末から高校チームを相手に練習、実力をつけてきた。選抜チームとしてはまとまりもよく、ベスト4進出ものぞめる。

大会期間中は研修試合、技術指導会、指導者研修会も予定されており、中学生年齢の大幅なレベルアップが期待される。

▶役員▶監督 前本勇二郎 (湊川中教) ▶コーチ 坪井正治 (鷹匠) ▶生徒引率 瀬川善博 (瓦木中教) ▶主務 山名康久 (上野中教)
▶選手▶G K 溝口貴史 (高倉中) ▶F B 前田裕之 井上教文:主将 (以上神戸FC)、上谷等 (伊丹西中)、石田明豊 (三木中) ▶H B 藤井達也 (大久保少年クラブ)、西中英伸 (御原中)、和田昌裕 (上野中) ▶F W 塩田芳丸 (高倉中)、山下晴彦 (神戸FC)、小丸俊哉 (辰美中) ▶補欠 中田篤志 (潮少年団)、桑木達生、岩田和彦 (以上瓦木中)、小林公平 (甲陵中)、斎藤慎吾 (鷹匠中) =16人



個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒657 神戸市灘区上野通6丁目3-12

加藤 正信 ☎078 (861) 3100

なお、数人分をまとめて申し込まれる場合は、割引がありますのでご連絡ください。

兵庫一に関学大
日触の追撃を振り切る

兵庫カップ

兵庫一の栄冠は関学大が獲得した。第5回兵庫カップの決勝戦、関学大―日本触媒の試合は2月4日、神戸中央球技場で行われ関西



関学―日触の決勝戦、後半22分、関学の森井(白)が20%のシュートを決める (2月4日、神戸球技場)

学生サッカーの名門・関学が2度目の王座についた。

試合は前半19分に、祐源 (県芦屋高出) がドリブルシュートで先取したあと、日触も混戦から早瀬がゴールを決めて振り出しに戻したが、若さにあふれる関学はPKで日触を突き放した。

決勝で惜しくも敗れたが、日触の健闘ぶりも見事だった。スピーディで豊富な運動量は関学を上回るものがあった。

兵庫教員団	2	6	1
日本触媒姫路	3	2	②
古河金属	PK 3	2	②
新日鉄広畑	3	PK 1	②
三菱重工神戸	4	1	②
鐘淵化学高砂	1	PK 0	①
ユニオンマンナカ	0	PK 1	①
関西学院大学	5		4

MEN'S SHOP MAC

三宮センター街店 ☎078(391)0895
プレザージュ・トーアロード店 ☎078(391)0896
神戸・新開地店 ☎078(575)7688

ワールドスポーツ

東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西
オウビ

葦合区琴緒町4丁目7 ☎078(242)3667
国鉄三宮駅北側神戸経理専門学校校前(田上ビル1階)

スメラ

湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234
鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

関正スポーツ

東灘区住吉宮町4丁目6-13 ☎078(821)8449
国鉄住吉駅南側西へ20m

灘スポーツ

灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671
バス水道筋6丁目上がりの100m東側

塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870
パンドウ化学南

本紙は次のところにもあります



神戸のサッカー

1979 3月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市北区有野台7丁目16-6
〒651-13 ☎(078)981-5867
発行人および編集人 加藤 正信
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎(078)861-3100
毎月1回10日発行 購読料1部20円

見せるぞ最高のプレー

神戸球技場開設10周年、日本ユース代表招待大会

ヤンマー

異色の対決

日本ユース

神戸市立中央球技場は今年の3月30日で、開設してから満10年を迎えます。また、8月から9月にかけて、神戸など日本の各地で第2回ワールドユース選手権大会が行われます。

兵庫県協会と神戸市協会は、日本サッカー界で果たした神戸中央球技場の役割を振り返るとともに、ワールドユース大会の成功と、日本ユース代表の活躍を祈って来る3月25日、神戸中央球技場でサッカー大会を開きます。



日本ユース代表は、神戸市立中央球技場を相手に激しいプレーをいどむ (いずれも12月10日、大阪長居競技場)

2月23日にワールドユース大会の組み合わせが決まってから、日本ユース代表チームの練習は、一段と密度が濃くなっている。このチームは昨年の3月から、一連の強化が行われてきた。その間、選手の入替えが多かったが、本大会を半年後に控えた2月はじめから、メンバーはほぼ固定したようだ。28日まで千葉県検見川で行われた第9次の合宿では、体力トレーニングが重視され選手たちはきつい練習に耐えた。

もちろん実戦感覚の習得にも余念がなく、毎週水、土曜には、日本リーグのチームと練習試合を組んでいる。3月10日から再び検見川で1カ月をわたる第10次の合宿に入った。

ヤンマーを「仮想」スペイン、メキシコ、アルジェリアに見立てて、ユース代表がどんなプレーを見せるか、注目の一戦となろう。

3月25日、神戸球技場
ヤンマーもベストメンバー

一方のヤンマーも、釜本監督をはじめベストメンバーでのぞむ。新旧選手の交代時期で、このところ日本リーグの栄冠から遠ざかっているが、2年目を迎える「釜本ヤンマー」は今年にかけている。

2月7日から19日まで、タイ・バンコク銀行主催のチャリティ・フットボールゲームに招待された。昨年度のクイズカップの覇者ポート・オーソリティなどを相手に2勝2敗1分け。若い選手に機

ヤンマー戦に全力

日本ユース代表監督 松本育夫

昨年の3月からワールドユース大会を目標に、19歳未満 (34年8月1日以降出生) の若者を対象として強化を行い、現在10次の合宿に入っております。当初は約90人の候補選手がいまいましたが、激しい練習と試合に耐え抜いた28人に絞っています。

これまで海外試合や国内の強化試合で鍛えてきましたが、残念ながら期待どおりの成果が得られておりません。しかし、昨年の暮れの合宿あたりから明るいきざしが見えはじめ、



どのチームも強敵ですが、ベスト8入りをめざして真剣なまなざしでボールを追っています。3月25日には、本大会の会場の一つとなる神戸中央球技場で、ヤンマーを相手に日ごろの成果を見ていただきたいと思います。ご声援をお願いします。



ヤンマーデイズ

会を与えるため、釜本監督がベンチに残ったこともあって、成績は満足できるものでなかったが、若手が伸びてきたことで、54年度に明るい見通しが得られた。

4月1日から始まる日本リーグに備えて、最後の調整に励むヤンマーにとっても、日本ユースとの試合は重要な意味をもち、白熱したすばらしい戦いが期待できそうだ。

日本ユース代表 ▶監督 松本育夫 ▶コーチ 花岡英光、森孝滋 ▶選手▶G K 鈴木康仁 (ヤンマー)、望月一頼 (清水東高)、中村和哉 (北陽高)、小西浩一 (室蘭大谷高) ▶F B 金子久 (古河電工)、吉村雅文 (枚方クラブ)、越田剛史 (金沢桜丘高)、柳下正明 (東農大)、高橋貞洋 (国士館大)、田中真二 (浦和南高)、中本邦治 (中央大)、風間八宏 (清水南高) ▶H B 宮内聡 (古河電工)、水沼貴史 (浦和南高)、境田雅章 (愛知高)、鈴木淳 (仙台山向高)、熊谷義一 (四日市中央高)、菅野将晃 (旭高)、杉山誠 (静岡学園高)、柴崎雅之 (市原緑高) ▶F W 柱谷幸一 (京都商高)、尾崎加寿夫 (三菱重工)、黒田善幸 (摂津高)、猿沢茂 (大体大)、佐々木博和 (枚方クラブ)、梶野智幸 (岡崎城西高)、樺田龍 (横浜市立東高)、樋口士郎 (本田技研) =28人
ヤンマー ▶監督 釜本邦茂 ▶コーチ 三田俊、別所充 ▶主務 玉田稔 ▶選手▶G K 垣内輝久、坪田政芳 ▶F B 山野孝義、浜須昌宏、坂野博史、上野山信行、山野孝明、湯浅真一、安田一 ▶H B 大畑行男、今村博治、吉村大志郎、阿部洋夫、藤原義三、ジュリオ・節夫、上田、楚輪博、上西一雄 ▶F B 釜本邦茂、堀井美晴、亀田忠孝、川口勝、曾根政芳

と き…3月25日(日)

試 合…▶ヤンマー 対 日本ユース代表 (午後2時) ▶伊丹ママさんチーム 対 サッカー協会40歳以上役員チーム (午後0時30分) ▶神戸地区高校選抜対阪神地区高校選抜 (午前11時)

ところ…神戸中央球技場―神戸市兵庫区御崎町1丁目 (三宮国際会館前から市バス⑩、⑪系統で25分。国鉄、高速神戸駅前から⑩系統で15分、吉田町1丁目下車)

入場料…一般300円 (当日500円) 中高生200円 (当日300円) ただし、女性と小学生は無料

日本、スペインと初戦
神戸では韓国など4チーム

ワールドユース

ワールドユース大会の1次リーグの組み合わせ抽選会が2月23日行われ、日本は開幕戦でスペインと対戦することが決まった。

神戸ではCグループに入ったカナダ、ポルトガル、パラグアイ、韓国による予選リーグと準々、準決勝の合わせて8試合が行われる。

- ▷-----国際的なサッカー場としておなじ-----◁
- ▷-----みの神戸中央球技場が、3月30日-----◁
- ▷-----で開設10周年を迎える。数々の国-----◁
- ▷-----際試合をはじめ、日本リーグから-----◁
- ▷-----少年の大会まで、各種の試合が行-----◁
- ▷-----われてきた。日本のサッカー界に-----◁
- ▷-----果たした役割は大きく、芝生の状-----◁
- ▷-----態、照明設備等の優秀さは文句な-----◁
- ▷-----しの日本一。-----◁

世界の一流プレイヤーが絶賛

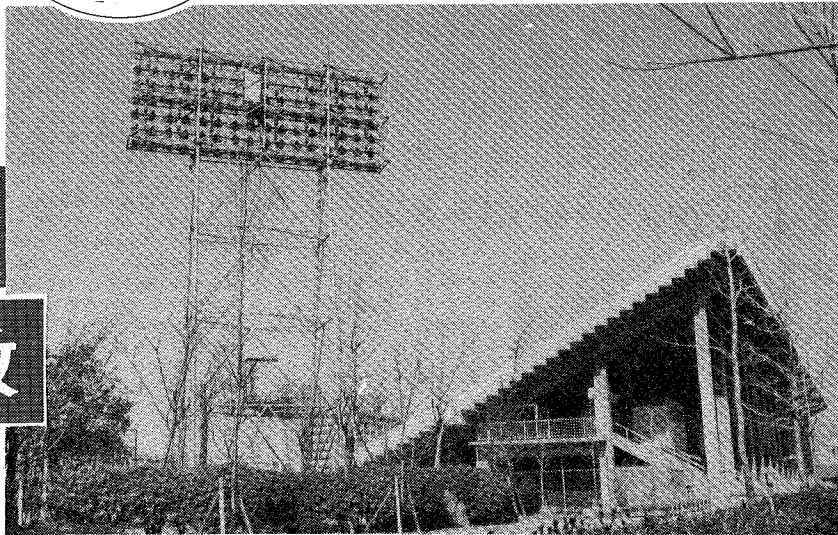
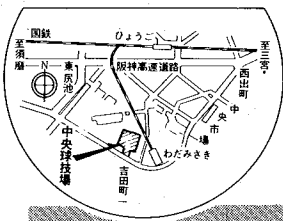
年輪刻み さらに充実

神戸は昔からサッカーの盛んなところ。サッカー発祥の地ともいわれている。大正時代、強かったのは御影師範と神戸一中で、全国にその名をとどろかせていた。戦後になると神戸・兵庫のサッカーは振るわなかったが、東京オリンピ

ックの前から、国際試合のできる芝生のグラウンドがほしいという、サッカー愛好者の熱意が実って44年3月、兵庫区御崎町に完成。記念式典には宮崎市長

の出席のもと小・中・高校生が5試合を楽しむなど、球技場の誕生を祝った。さらに2カ月あとの5月18日には、ヤンマーと全英アマ選抜が、こけら落としとして初めての国際試合を行っている。

この10年の間、神戸中央球技場はサッカー王国再建の象徴として、サッカー愛好者の熱意が実って44年3月、兵庫区御崎町に完成。記念式典には宮崎市長



開設10周年の神戸中央球技場

世界屈指のグラウンド

緑のジュウタンを敷きつめたグラウンド、足を踏み入ると、心地よい弾力がはね返ってくる。サッカーの王様ペレや、66年ワールドカップの得点王エウゼビオ（ペ

ンフィカ・リスボン）など世界の超一流選手が訪れ「世界でも屈指のナイスグラウンド」だと絶賛した折り紙つきの球技場。

グラウンドは全面にわたって良質の姫高麗（ひめこうらい）芝が植え込まれてあり、22,000人収容のスタンドの完成とともに、45年1月わが国では初めて、国際級の夜間照明設備ができあがった。

真昼の明るさつくる照明

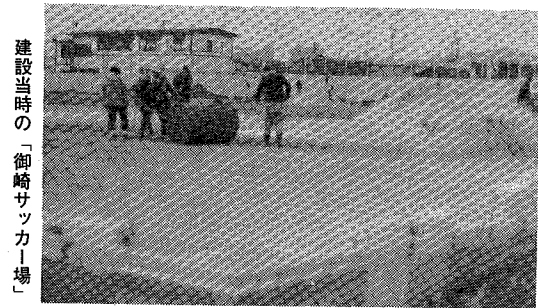
照明設備の設計は神戸市当局が進められたが、FIFA コーチのクラマー氏やサッカー協会の関係者の意見も十分にとり入れられ、最高の設備を誇った。特に、鉄塔の位置についてはいろいろ検討された結果、グラウンドの4すみに設置し、また骨組みは美観を考えてパイプ構造が採用された。

高さ24mの鉄塔4基には、1号、高効率ハライドライト投光器90燈ずつ合計360燈が設置され、初期の平均照度1,180lxを保った。

照度は年月とともに落ちていくが、それでも最終的に600lxが得られるように、十分に管理されている。これは、ホルクスパルクスタジアム500lx（西独ハンブルグ）、メンヘングラッドバッハスタジアム440lx（西独メンヘングラッドバッハ）など、海外の有名な球技場の照度をはるかに上回るもので、カラーテレビ放送にも全く支障がない。

ただ、スピードに富んだサッカーでは、明るいだけではだめで、そのほかにもいろいろな留意点を施す必要がある。その一つが照度のむらがないこと。

高速で動くボールを見失わないようにするには、グラウンドのどの地点でも照度が均一であり、ボールや選手の影ができないような対策がある。一方からの照明では、以上の2点で不利なばかりでなく、ボールの半面だけが明るくなり、見る方向によっては立体感がなくなるため、ボールの速さと距離の感じがつかめない恐れがある。4基の照明塔で4つの方向から照らすことにより、どの場面でも真上から照明されているように見え、これらの問題が解決された。人間は、視線から30度以内の範



建設当時の「御崎サッカー場」

神戸中央球技場がこの3月で、開設してから10年目を迎えるという。筆者にとっては感無量である。球技場の建設当時を振り返る前に、まず神戸のサッカーの歴史について、少し触れておきたい。

古い資料の中に、明治23年（1890年）神戸神学校の外人教師と生徒が、ボールをけている写真がある。またこの年には、神戸在住の外人クラブ・K R A Cと横浜外人クラブの間で、第2回目の定期戦が神戸で行われ、両者が引き分けた。明治29年には、神戸一中（現神戸高）や御影師範（現神戸大教育学部）で、サッカーを楽しんでいた記録がある。

このようなことから、90年前には神戸にサッカーが知られていたことは、確かであろう。そして大正7年、大阪毎日新聞社主催の第1回全国フットボール大会（現在の全国高校選手権）が行われ、大正13年の第7回大会までは、御影師範が連続優勝を飾った。8回大会で神戸一中が決勝で御影師範を破って、悲願の全国制覇をとげた。そのあと第2次大戦で中止になるまでの22回の大会で、御影師範が10回、神戸一中が5回、合計15回も兵庫の中学が優勝し「兵庫を制するものは全国を制す」とまで言われ、全盛時代が続く。戦争のため3回にわたって中断された大会は、昭和22年に第26回大会が16チームによって再開されたが、それ以後現在まで残念ながら、兵庫県代表の優勝は一度もない。

「サッカー王国兵庫の夢よ今一度」というわけで、兵庫サッカー

の斜陽を見かねた先輩たちが、1,007人の仲間を集めて昭和38年12月、「兵庫サッカー友の会」を作った。そこで掲げた五つの夢の一つが「国際試合のできる球技場」の建設だった。

筆者ら友の会の幹事は、まず球技場の土地探しに走りまわり、候補地として御崎の競輪場の跡に白羽の矢を立てた。「神戸にサッカーが入ってから80年になるのに、国際試合ができる球技場がないのは、サッカー王国を誇った国際都市神戸の恥だ。サッカー場を御崎に…」と、県下のサッカー愛好者15,000人の署名を添えて、当時の神戸市助役、現在の市長・宮崎さんに度重なる陳情を繰り返した。完成までに10年の歳月はかかると予想していたが、関係者の努力が実って、わずか5年でできあがったのである。

前置きが長くなったが、その当時、観衆を収容できる芝の専用球技場は日本になかった。つまり国際試合のできる球技場の第1号だった。

第1期の工事が完了した44年3月30日、宮崎市長を迎えて球技場開きを行い、それまで「御崎サッカー場」で通していたが、市長のご提案で「神戸中央球技場」として命名され、初めて一般のサッカ

中央球技場建設の思い出

加藤 正信



一愛好者の前に披露された。しかし、グラウンドができあがったものの、問題がないわけではなかった。観客の収容能力と照明設備について、筆者らはさらにお願いまわった。

収容能力の向上

当初の計画では数千人程度だったが、国際試合を行うには、少なくとも2万人くらいの規模がほしい。

このため、バックスタンドとタッチライン、およびメインスタンドとタッチラインとの距離が8mを予定していたのを、ともに3m減らして両側で6m、また補助グラウンドとの境界を補助グラウンド側へ6m広げて、結局合計12mかせいで、これをバックスタンドのスペースに充てた。しかもバックスタンドは、なだれ防止用のさくを設けて立ち見席として、収容能力をふやした。

また計画案では、メインスタンドの長さが今よりかなり短く、ペナルティエリアの前線の延長線上あたりだったものを、さらにのばして現在のように広げた。

照明設備

1）照明用鉄塔の位置
神戸市当局は米国の文献に基づき、4基の側面照明方式（サイドライティングとよばれ、タッチラインに平行なスタンド上部から照明を行う方式）を計画していた。

私たちは故田辺五兵衛氏と協議し、照明設備のあるサッカー場を200以上も国内に持つ、英国の協会ニュース（F A ニュース）を調べている中、1967年3月号にD. A. アダムス氏の論文を見つけた。彼

は、塔の位置は下図の中に示すTの位置が最もよく、現代のサッカー場はすべて四すみ照明方式（コーナーライティング）で、側面照明は昔の型だと書いていた。

日本蹴球協会（当時）の技術委員や、たまたま京都に居あわせた西独のクラマー氏らの意見とも一致したので、四すみ照明方式に設計変更するよう強く申し入れて現在の姿となった。

2）照度

照度は光源からの距離の2乗に反比例する。四すみ照明方式を推奨したものの、果たして24mの高い鉄塔上から照らして、十分な照度が得られるか実は心配だった。

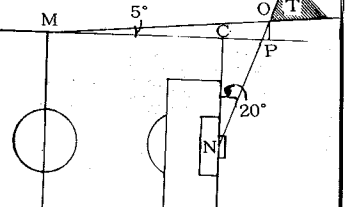
44年12月5日、点燈試験で平均照度1200lx、月日が経って照明燈のレンズが汚れても、650lxは大丈夫だと聞いたとき胸をなでおろした。プレーヤーはもちろん、スタンドで楽しむ観客にも、またテレビ放映にも文句のない明るさだった。

結局、以上2つの難問は、故玉井操氏のご尽力と神戸市当局の温かいご理解で生まれたものである。45年1月4日、公開点燈の記念式に招待された日、私のうれし涙はとめどなくほほを伝わった。

そして、ふと、私の頭をかすめて通ったのは、古人の詠（うた）った一句である。

「なせばなる なさねばならぬ 何事も ならぬは人のなさぬなりけり」……。（かとうまさのぶ）

（かとうまさのぶ）



【アダムス氏の論文の要約】

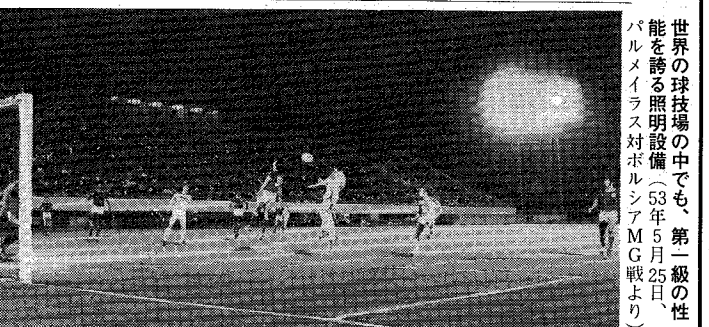
塔は斜線の部分に設けるのが最もよい。点Oからタッチラインの延長線上に垂線OPをおろすと、MC=52.5m、CN=34mのときCP≒14.5m、OP=5.9mとなる。

囲にある光源は、特にまぶしく感じる。従って、この範囲にはできるだけ光源がないように鉄塔の配置、高さが設計されている。グラウンドの対角線上に高さ24mの塔を4基設置し、原則として低い位置の照明燈で近距離の部分や、また高い位置の照明燈で遠距離を照らすようにしている。コーナーに近いところから塔を見上げるような極端な場合を除いて、まぶしさは最少限に抑えてあり、実

用的な問題はない。

また、ちらつきが起こるとプレーの障害になるが、従来よく用いられていた水銀ランプよりも、はるかにちらつきの少ない高効率ハライドライトを採用している。この点でも十分だ。

グラウンド面だけ明るくして、その周囲やスタンドが暗い場合は、選手も観衆も目が疲れやすくなる。これを防ぐため、観客席の前部で150—300lxの明るさを保っている。（この項の資料提供：神戸市）



世界の球技場の中でも、第1級の性能を誇る照明設備（53年5月25日、M G 戦より）

3、4月の日程

3月18日(日)西日本OB大会09:00
3月25日(日)開設10周年記念大会
ヤンマー対日本ユース代表ほか
14:00

4月8日(日)日本リーグ1部

ヤンマー対古河電工14:00

4月25日(日)日本リーグ1部

ヤンマー対フジタ工業19:00

5月からは、ワールドユース大会に備えて芝生の整備、施設の改築などが行われるため、行事は全く予定されていない。

ユース大会を機に装いを新たに

今年は開設10周年にふさわしい行事が予定されている。8月25日から国際的なビッグイベント、ワールドユース大会が開催されるが、神戸球技場も世界の若者が熱戦を展開する舞台の一つとなる。神戸で行われるのはC組のカナダ、ポルトガル、パラグアイ、韓国の4チームによる予選リーグ6試合と

準々、準決勝の合わせて8試合。これだけの世界的規模の大会が開かれるのは、神戸にとってももちろん初めて。このため神戸球技場では、大幅な化粧直しを進めることになっている。5月から完全に閉鎖され大会に備える。姫高麗芝は回復にすぐれているが、世界の選手に最高のプレーを発揮して

もらおうと、グラウンドキーパーの福田正夫氏は、早くも準備に余念がない。このほか、スタンドの席を木製からプラスチック製にかえ、また新しい電光掲示板の設置も予定されている。

数々の好試合（第2面）を生んできた神戸球技場に、いま新しいページが開かれようとしている。

＝ 国際試合 ＝

◆昭和44年
5・18 日英親善＝10,000人
ヤンマー 0 (0-0) 1 ミドルセックス・ワンダーラーズ(英国)

◆昭和45年
3・21 朝日国際三國対抗＝18,000人
日本代表B 0 (0-3) 7 ヨテボリ (スウェーデン)
日本代表A 1 (1-0) 1 フラメンゴ (ブラジル)

6・4 日英親善第3戦＝12,000人
全日本 1 (1-0) 2 サザンブトン (英国)

6・22 インドネシア招待第1戦
ヤンマー 1 (1-0) 4 ノルデゲテックス

7・8 日チ親善第1戦＝4,200人
全日本 3 (3-1) 4 コペンハーゲン03 (デンマーク)

8・25 ベンフィカ・リスボン招待第1戦＝18,000人
全日本 0 (0-3) 3 ベンフィカ (ポルトガル)

◆昭和46年
5・29 日英親善第1戦＝11,000人
全日本 0 (0-2) 6 トッテナム・ホットスパー

6・28 日英親善第2戦
三菱重工 2 (2-1) 2 サウスチャイナ (香港)

◆昭和47年
6・10 日英親善第3戦＝13,000人
全日本 1 (1-1) 2 コベントリー (英国)

◆昭和48年
1・15 日チ親善第3戦＝15,000人
全日本 1 (1-0) 2 ウェン・エス・バニオラ(チリ)

◆昭和49年
3・5 日朝交歓第2戦＝8,000人
日本ユース選抜0 (0-5) 6 ビヨナン

6・6 日英交歓第1戦＝4,000人
全日本 0 (0-0) 1 ミドルセックス・ワンダーラーズ(英国)

8・2 日独交歓第1戦
全日本 2 (2-1) 2 ヘルタBSC (西ドイツ)

◆昭和51年
9・23 日米親善第1戦＝11,000人
日本選抜0 (0-0) 0 ニューヨーク・コスモス(合衆国)

10・12 国際親善＝500人
関西学生選抜1 (1-1) 1 ウルグアイ学生選抜

◆昭和53年
5・25 ジャパンカップ・グループII
パルメイラス1 (1-0) 1 ボルシアMG (ブラジル)

＝ 国内試合 ＝
◆昭和45年 5・23日本リーグ(5,300人) 東洋工業1-0ヤンマー。9・20日本リーグ(4,500人) 古河電工2-1ヤンマー。10・25日本リーグ(4,000人) ヤンマー4-1日立。

◆昭和46年 4・11日本リーグ(4,500人) 日立1-0ヤンマー。5・16日本リーグ(6,000人) ヤンマー2-1東洋工業。11・28日本リーグ(7,500人) ヤンマー3-1日本鋼管。

◆昭和47年 5・7日本リーグ(3,500人) ヤンマー4-0古河電工。11・5日本リーグ(2,000人) ヤンマー3-1藤和不動産。11・26日本リーグ(6,000人) ヤンマー2-2三菱重工。

12・27天皇杯全日本選手権準決勝2回戦 三菱重工 9-0 大日電線。◆昭和48年 7・28日本リーグ 日立2-1ヤンマー。7・29日本リーグ 東洋工業2-1田辺製薬。8・11日本リーグ 東洋工業2-1田辺製薬。8・18日本リーグ ヤンマー1-0藤和不動産。8・25日本リーグ ヤンマー6-0田辺製薬。9・15日本リーグ 藤和不動産5-1田辺製薬。9・30日本リーグ ヤンマー6-0東洋工業。10・14日本リーグ ヤンマー3-1トヨタ。

11・11日本リーグ 日立6-0田辺製薬。12・30天皇杯全日本選手権準決勝(4,000人) 三菱重工1-0ヤンマー。◆昭和49年 1・6日本リーグ1・2部入れ替え戦 永大産業2-1田辺製薬。4・21日本リーグ ヤンマー1-1三菱重工。5・12日本リーグ ヤンマー0-0東洋工業。12・1日本リーグ ヤンマー2-1古河電工。

◆昭和50年 4・6日本リーグ ヤンマー3-0藤和不動産。5・25日本リーグ 三菱重工2-1ヤンマー。10・18日本リーグ ヤンマー3-0新日鉄。11・15日本リーグ ヤンマー3-1日本鋼管。12・27天皇杯全日本選手権3回戦 ヤンマー2-0新日鉄。12・30天皇杯全日本選手権準決勝 日立1-0ヤンマー。◆昭和51年 1・18日本リーグ1・2部入れ替え戦 トヨタ0-0田辺製薬。4・11JSLカップ予選リーグ ヤンマー1-1田辺製薬。ヤンマークラブ1-0新日鉄。8・28日本リーグ ヤンマー2-0東洋工業。9・11日本リーグ 古河電工1-0ヤンマー。10・11日本リーグ ヤンマー7-1トヨタ。12・12天皇杯全日本選手権1回戦 ヤンマークラブ2-1本田技研。フジタ工業5-0大日電線。12・18天皇杯全日本選手権2回戦 古河電工2-0ヤンマークラブ。12・30天皇杯全日本選手権準決勝 ヤンマー1-0新日鉄。◆昭和52年 5・22JSLカップ準決勝 ヤンマー3-2本田技研。9・11日本リーグ ヤンマー4-3富士通。9・25日本リーグ ヤンマー3-1日立。12・30天皇杯全日本選手権準決勝 ヤンマー1-0古河電工。◆昭和53年 1・29日本リーグ 日本鋼管1(PK 4-2)-1ヤンマー。4・9日本リーグ ヤンマー4-2読売クラブ。4・26日本リーグ ヤンマー5-0東洋工業。5・14日本リーグ ヤンマー5-0東洋工業。12・24天皇杯全日本選手権1回戦 富士通4-0九州産大。田辺製薬2-1帝人。12・25天皇杯全日本選手権2回戦 フジタ工業5-1ヤンマークラブ。富士通1-0日本鋼管。12・27天皇杯全日本選手権準決勝 東洋工業2(PK 4-2)-2ヤンマー。フジタ工業3-0富士通。

(記録：宮野)